2004年度春学期・前期　関西大学「学生による授業評価」アンケートに対するコメント

所属	専任のみ記入してください。 商学部	資格	どちらかに○印をつけてください。 専任　非常勤	氏名	長谷川　伸
授業科目	アンケートを実施されたすべての科目（学部）を記入してください。 ラテンアメリカ経済論				

複数の実施科目について一括してコメントしていただいても、科目ごとのコメントでも結構ですが、なるべく１枚以内に収めてください。

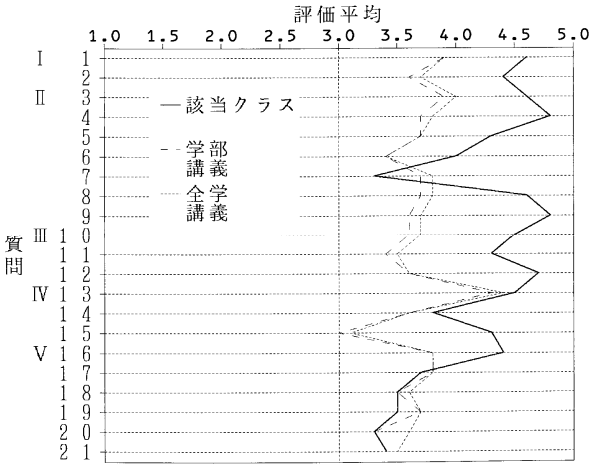
はじめに

「学生による授業評価」アンケート結果（集計結果および自由記述）については，シラバスなど基本的な情報とともにすでにウェブページ[1)]に掲載していますので，ここでは集計結果をどう見るか，集計結果と自由記述をふまえて今後の授業改善にどう生かしていくかについて述べます。

学生が授業の企画・実施・伝承に参画するラテンアメリカ経済論

シラバスによるとラテンアメリカ経済論は「学生参画型，すなわち教員の教育的配慮のもとに，受講学生が主体的に，授業の企画・実施・伝承に参画する授業をめざします。したがって，毎回の授業への出席はもちろん，授業外での相当量の学習・活動が必要です」。この点でレクチャー中心の授業形態（講義）をとる他の多くの専門教育科目とは大きく異なります。しかも決して「ラク」ではなく間違いなく「しんどい」授業です。授業中には授業への積極的関与が常に求められますし，授業時間外では授業準備や毎回の個人課題があるからです。学ぶことは本来「うれしい」ことですが同時に「しんどい」ことでもあるのです。「あの授業はしんどい」との評判がある関係でしょうか，履修者数は55名と専門教育科目としては少人数です。このうち今回のアンケートに回答した学生は29名で，回答率は52.7%です。

9割近くが満足，
8割が「触発されてさらに深く学習したい」，
9割以上が「知識が深まった，能力が高まった」



授業による成果はどうだったでしょうか。集計結果によれば，設問10では「強くそう思う」62.1%，「そう思う」27.6%となり9割近くの学生が満足していることがわかります。また，設問11では「強くそう思う」55.2%，「そう思う」24.1%となり約8割の学生が「この授業に触発されて，さらに深く学習したい」とし，設問12では「強くそう思う」72.4%，「そう思う」20.7%となり9割を超える学生が「この授業を通じて，知識が深まった，能力が高まった」と感じています。この授業は，ほとんどの学生にとって充分な成果があったと言えます。

こうした評価を裏付ける自由記述を紹介しましょう。「大学4年目にしてこんなに充実した授業に参加することができて，よかったです。自分で調べて疑問に思ったことを深く学んでいく，これが本来の学びのプロセスなのに，今までの大学生活で実行することはできなかったけど，この授業に参加してまた自分たちで運営して，すごく身になったと思います。今後の人生にも活かしていきたい」。「大学の授業で，こんな形式の授業があるなんてすごい驚きだった!!他の授業に比べて色んな意味で重かったけど，やりがいがあったし，一回一回の授業でそれぞれ大きな発見ができた。履修してよかったです」。「授業の形態としては，今までにない形で，大変おもしろくて，一番身につく授業だと思う。CWで発表班への助けとなるだけでなく，予習もできて，頭に入りやすかった。4回生としてはちょっと忙しくて大変でした（笑）」。

高い評価は学生参画型と学生に向けられたもの

専門教育科目としては少人数という条件に恵まれているので，授業の成果に関する評価が平均値と比べて高くなるのは当然ですが，自由記述の結果もあわせて考えると授業形態としての学生参画型の有効性を示しているものと思います。ここで忘れてはいけないことは，このラテンアメリカ経済論は学生が中心となって授業をつくってきましたから，これは学生に対して与えられた評価だということです。その点で，今年度も「学びに生きる」すばらしい学生たちに出会えたことに感謝しています。

改善点1：設備・機器の活用

もちろん，授業による成果において高い評価を得たからといって改善点がないわけではありません。授業は常に改善し続けていく姿勢が大事だと思います。第1に，今回は設問7（OHP，ビデオ，パソコン機器等の使い方は適切でしたか）に対して全学・学部平均を下回る結果（3.3）となりました。設備・機器・TA/SAについて問う設問17-21についても全学・学部平均を下回りました。この点について自由記述で触れている学生がいませんので，何を意味しているのか掴みかねるのですが，おそらくもう少しこうした設備・機器を使うべきだということなのでしょう。この授業では，こうした設備・機器をほとんど使っていませんし，TA/SAも配置されていません。なぜこうした設備・機器をほとんど使わないのかといえば，設備・機器を使うこと自体が目的化したり，充分な吟味のないままビデオ上映で授業時間を消費したりして授業を空洞化させる危険性が高いからです。もちろん，使わないと決めているわけではありませんので，今後とも必要なら躊躇なく活用します。

改善点2：引用出所の明示・信憑性の確保

第2に挙げられるべき改善点として，授業で語られていることの信憑性をめぐる問題があります。今回の自由記述で以下の指摘がありました。「前期の授業をふり返って，多くのことを学んだなと思っています。多くの情報をうけとれたのですが，全てが真実なのかな，と少し疑問に思いました。CWや新聞を作るに当たって，（また授業運営でも）どこからこの情報を得たのか，という元がわからなかったりします。初めの授業でもう少しきっちりと出所明記のことについて，情報データベースの作り方について学んでいれば，違ってきてたと思います」。情報の信憑性を確保するためにはまず出所の明示が必要です。これについては第1にプリント「自説と引用の区別・引用出所の明示」を授業で配布し，第2にContribution Workやクラス新聞『ラテンアメリカ経済論新聞』などで，自説と引用の区別と引用出所の明示をするように指導し，第3に私が配布するプリントで引用がある場合には必ず出所を明示するようにしています。ただし指摘の通り，すべての資料・情報について出所がきちんと明示され，信憑性が確保されているかというと，まだそのレベルには達していないのも確かです。資料・情報の出所をきちんと明示すること，信憑性を確かめることは，教育と研究においては基本的なマナーに属することです。ただし残念ながら，こうした基本的なマナーを学生が身につける場がほとんど用意されていません。ラテンアメリカ経済論についてのあるまとまった学びを1セメスターで実現しつつ，こうしたことも学んでいくことは難しいことかもしれませんが，チャレンジしていきたいと思います。

学生とともに授業を常に改善し続けていく

なお，アンケート集計結果は手元に届いたのが授業終了後の9月末でしたので間に合いませんでしたが，すでに自由記述については全てコメントをつけた上で，7月9日の第14回（最終回）の授業で公開・配布したことを付記しておきます。これからも，感謝の気持ちと謙虚さを忘れずかつ勇気をもって，学生とともに授業づくりと「学びの旅」を続けていきたいと思います。

---

1) http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~shin/laeku-index-j.html.